

—— 資料編 ——

# 1. 学術論文リスト

## 論文

- MT-1001 On the Chemical Components of Green Tea.(1932)  
辻村博士学位論文  
主論文(一)MT-1007, 主論文(二)MT-1008, 主論文(三)MT-1009, 主論文(四) MT-1010
- MT-1002 家蚕の栄養に就て(第一報), 蚕業新報, 345号, 382-387(1922)  
蚕の飼育に際し, 給与桑と蚕児の栄養状態との関係についての研究
- MT-1003 家蚕の栄養に就て(第二報), 札幌農林学会報, 12, 155-168(1923)  
同じく続報
- MT-1004 緑茶中のビタミンCに就きて(三浦政太郎, 辻村), 日本農芸化学会誌, 1, 34-44(1924)  
  
日本緑茶中にかなり多量のビタミンCを含有することを初めて発表した報告
- MT-1005 ヴィタミンCの分離及其化学的性質に就て(第一報), 理研彙報, 5(10). 701-72(1926)  
ビタミンC欠乏症のモルモットに対して大根絞り汁と夏みかん果汁を与え, その治療に必要な量を比較した。
- MT-1006 ヴィタミンCの分離及其化学的性質に就きて(第二報), 理研彙報, 6(12). 1111-1118(1927)  
分離したビタミンC物質の化学的性質についての研究
- MT-1007 On Tea Catechin Isolated from Green Tea. Sci. Pap. I. P. C. R. 10(190).  
253-261(1929)  
日本緑茶中より茶の渋味を呈する一つの物質カテキンを初めて分離した  
(Tea Catechin I 即ち l-Epicatechin)
- MT-1008 On Tea Tannin Isolated from Green Tea. Sci. Pap. I. P. C. R. 14(261).  
63-69(1930)  
日本緑茶からカテキンより渋味の強い物質タンニンを無定形にて分離した
- MT-1009 On the Constitution of Tea Tannin. Sci. Pap. I. P. C. R. 15(293). 155-159(1931)  
茶のタンニンの構造について, 茶のタンニンはカテキンに没食子酸がエステル上に結合したものであることを合成的に証明した
- MT-1010 Carotin and Dihydroergosterol in Green Tea. Sci. Pap. I. P. C. R. 18(349).  
13-21(1932)  
緑茶中のカロチンとステリンについての報告
- MT-1011 Vitamin C in Japanese Green Tea. (M. Miura, M. Tsujimura) Sci. Pap. I. P. C. R.  
20(409). 129-144(1933)  
MT-1004の翻訳
- MT-1012 Isolation of a New Catechin, Tea Catechin II or Gallo-Catechin from Green Tea.  
Sci. Pap. I. P. C. R. 24(506). 149-154(1934)(The Bulletin of the Agricultural  
Chemical Society of Japan. 10(7-9). 140-147(1934)にも掲載)  
緑茶から新しい種類のカテキンであるガロカテキンを得た  
(Tea Catechin II 即ち l-Epigallocatechin)

- MT-1013 Isolation of Tea Tannin in Crystalline State from Green Tea. Sci. Pap. I. P. C. R. 26(558). 186-191(1935)  
緑茶からタンニンを結晶で取り出した(Tea Tannin I 即ちl-Epicatechin gallate)
- MT-1014 緑茶の単寧物質に就て, 茶業組合創立五十周年記念論文集より, 茶業組合中央会議所(1935)
- MT-1015 緑茶より分離したカロチンに就て, 茶業組合創立五十周年記念論文集より, 茶業組合中央会議所(1935)
- MT-1016 Isolation of p-Coumaric Acid from Green Tea. Sci. Pap. I. P. C. R. 32(717). 138-142(1937)  
緑茶からパラクマーリックアシドを得た
- MT-1017  $\alpha, \beta$ -Hexylenaldehyde in Green Tea. Sci. Pap. I. P. C. R. 34(775). 406-407(1938)  
緑茶から $\alpha, \beta$ -ヘキセナルの分離
- MT-1018 緑茶中のフラビンに就て(辻村, 赤穂たみ, 佐佐木ひで), 理研彙報, 19(9). 1271-1274 (1940)  
緑茶中に相当量のフラビン(ビタミンB2)を含むことを動物飼育実験と定量法とで証明した
- MT-1019 Ellagic Acid in Green Tea. Sci. Pap. I. P. C. R. 38(1044). 487-489(1941)  
緑茶からエラグタンニンを取り出した
- MT-1020 Flavones in Green Tea. Sci. Pap. I. P. C. R. 38(1045). 490-492(1941)  
緑茶中に存するフラボン色素クエルセチン, ケンベロールについて
- MT-1021 しらがし果実の単寧物質に就て(第一報). 理研彙報, 22(7). 696-697(1943).  
同(第二報). 理研彙報, 22(7). 698-699(1943)  
かしのどんぐりを食用とするためにその中に含まれるタンニンについての研究
- MT-1022 カラコギカエデの葉の成分に就て. お茶の水女子大学自然科学報告, 2. 138-141 (1951)  
カラコギカエデの葉を染色用にするためにその成分を研究し結晶性のタンニンを得た
- MT-1023 On the Tea Tannins in Green Tea. J. Sci. Res. Inst. 46(1270). 31-35(1952)  
日本緑茶中のタンニン物質をペーパークロマトグラフィーにより研究し, 4種を認め、そのうち3つが以前著者が結晶に取り出したカテキンIとII及びテイタンニンに相当することを認めた
- MT-1024 海藻成分の研究 第1報, 海藻中のフラビンに関する研究. (辻村, 田部井菊子, 和田つる) 日本農芸化学会誌 26(1). 11-13(1952)  
海国日本に特有の食品である各種海藻中のフラビン量について定量した
- MT-1025 昆布のフラビンその他の成分に就て. (辻村, 山西貞, 吉松藤子) お茶の水女子大学自然科学報告 4(1). 100-104(1953)  
海藻中利用価の高い昆布に多量のフラビンの存在を認めたことにより昆布を用いて動物飼育試験を行ったところ, フラビンの存在と共に他に発育上有効な成分を含有することを認めた
- MT-1026 緑茶の単寧物質に就て, Tea Tannin IIの分離. (辻村, 高須英)  
日本農芸化学会誌 29(6). 407-412(1955)  
緑茶よりテイタンニンIIを結晶で分離した  
(Tea Tannin II 即ちl-Epigallocatechin gallate)

- MT-1027 緑茶の単寧物質に就て, Tea Tannin II (続報). (辻村, 大沢直子)  
日本農芸化学会誌 33(11). 914-915(1959)  
融点の異なるテイタンニンIIの存在を認め、テイタンニンIIの誘導体を作った
- MT-1028 On the Tea Tannin in Green Tea. Proc. Japan. Acad. 36(8). 506-508(1960)  
各種の日本緑茶中に存するタンニンの状態について
- MT-1029 On the Tannin in Tea Leaf. Proc. Japan. Acad. 37(10). 638-639(1961)  
製茶の際の蒸した茶葉と製茶用の生葉中のタンニンについて
- MT-1030 On the Tannin in Tea Leaf. Proc. Japan. Acad. 39(6). 376-379(1963)  
葉の成長に伴う茶生葉中のタンニン物質の生態について、カテキンよりタンニンへの推移
- MT-1031 カラコギカエデの葉の成分について, 第2報 Maple Tannin について. (辻村, 中浜千代子) 日本農芸化学会誌, 39(6). 209-211(1965)
- MT-1032 茶の渋味, 化学と生物, 5(5). 257-257(1967)

Sci. Pap. I. P. C. R

(Scientific papers of the Institute of Physical and Chemical Research の略)

Proc. Japan. Acad.

(Proceedings of Japan Academy の略)

J. Sci. Res. Inst.

(Journal of the Scientific Research Institute の略)

MT-1001,1007~1012,1014~1016,1018,1019,1022は別刷を保存。  
MT-1002~1006,1013,1017,1020,1021,1023~1032はコピー版を保存。

## 2. 随筆類

\*は写真を画像にて掲載した

### 1) 随筆

MT-2001 お茶の話(二), 家庭科学, 7-9(1953).

MT-2002 茶の話, 木原芳次郎ほか, 食生活の科学—新女性ライブラリー,  
文華堂書店, 83-135(1958)

### 2) 自筆

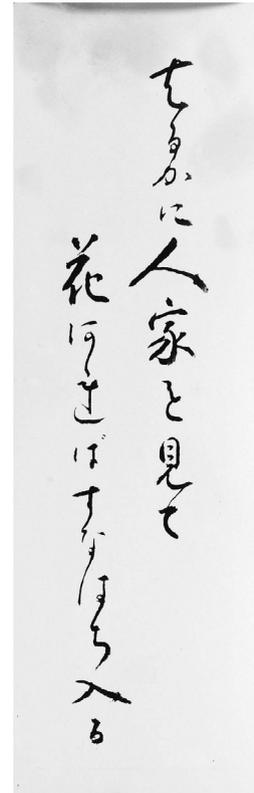
\* MT-2101 和歌 昭和28年3月

\* MT-2102 自筆手紙 山西貞, 吉松藤子宛礼状 昭和29年夏

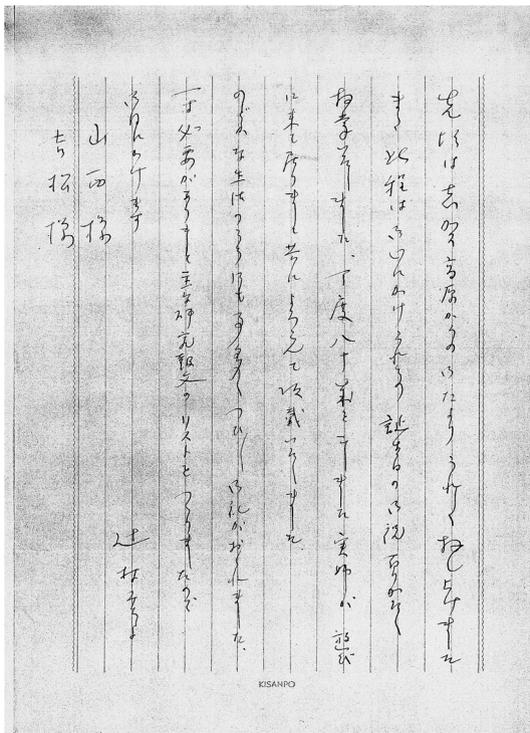
\* MT-2103 色紙 「滋味」 昭和29年4月

MT-2104 色紙 喜寿の寄せ書き 昭和39年9月11日

MT-2105 色紙 喜寿の寄せ書き 昭和40年4月24日



MT-2101) 和歌 昭和28年3月



MT-2102) 自筆手紙 山西貞と吉松藤子宛礼状 昭和29年夏



MT-2103) 色紙 「滋味」 昭和29年4月

### 3. 公的資料

\*は写真を画像にて掲載した

MT-3001 勤務記録カード

(コピー版)

\* MT-3002 学位記 農学博士 昭和7年6月8日

\* MT-3003 日本農学賞 昭和31年4月7日

MT-3004 勲記 勲四等寶冠賞 昭和43年4月29日

MT-3005 位記 従五位 昭和44年6月

MT-3006 感謝状 日本家政学会十周年 昭和34年10月10日

MT-3007 名誉教授 実践女子大学 昭和38年4月1日

MT-3008 特許公報 昭和10年6月21日公告 昭10-2544号  
植物體ヨリ結晶「ビタミン」Cヲ製造スル方法  
発明者：丸山捨吉, 辻村みちよ 出願人：理化学研究所

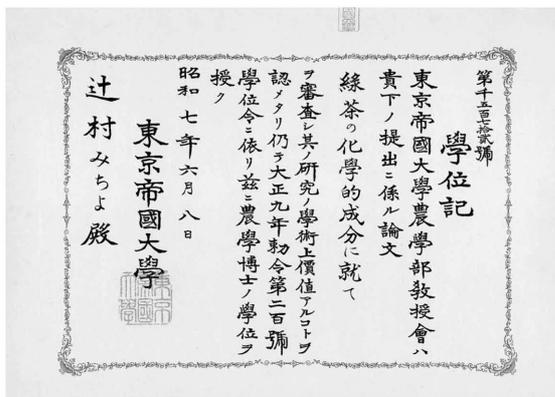
MT-3009 宝生宗家 免状 昭和23年 3件  
昭和30年 6件  
昭和32年 8件

MT-3010 池坊生花 免状 大正6年 6件  
大正10年 1件

MT-3011 席目付 家元門弟 花定式 翠柳庵春渚

MT-3012 華道家元池坊門弟 巻傳 翠柳庵

MT-3013 業績書類 研究報文 目録及内容概略(1964.9.17辻村作成)



MT-3002) 学位記 農学博士 昭和7年6月



MT-3003) 日本農学賞 昭和31年4月

## 4. 関連資料

\*は写真を画像にて掲載した

## 1) 評伝

- MT-4001 農学博士辻村ミチヨ女史 女博士列傳(8), 科学知識 16(5), 104-105(1936)
- MT-4002 市川源三ほか, 辻村みちよさん, 全国高等女学校長協会編, 日本女性文化史下, 361-363(1939)
- MT-4003 山下愛子, 今日を築いた化学のフロンティア 日本の女性化学者たち<2> 緑茶の研究で日本最初の女性農学博士となった辻村みちよ博士, MOL, 昭和43年1月号, 91-96(1968)
- MT-4004 加藤セチ, れい明期の女性化学者, 化学と工業 31(10), 95-96(1978)
- MT-4005 山下愛子, 辻村みちよ, 山下愛子編, 近代日本女性史科学, 鹿島出版会(1983)
- MT-4006 構成台本, 埼玉県広報テレビ番組 「ふるさとに拾う」 No.464 化学への情熱—女性農学博士辻村みちよの生涯, (1989年2月16日放映, 2月20日再放送)
- MT-4007 埼玉県, 女性農学博士第一号辻村みちよ, さいたま女性の歩み 上巻 目ざめる女たち, 219-220, (1993)
- \*MT-4008 東京女性財団, 辻村みちよ 「これからの女は組織だった学問で頭を練る必要がありますね」, 先駆者たちの肖像—明日を拓いた女性たち, 120-121(1994)
- MT-4009 埼玉県教育委員会, 辻村みちよ, 埼玉人物事典, 534-535(1998)
- MT-4010 ジョジョ企画, 科学者/農学博士辻村みちよ, 女たちの20世紀・100人—姉妹たちよ, 集英社, 65-65(1999)
- MT-4011 山西貞, お茶の研究で日本初の女性農学博士……辻村みちよ, 「少年少女のための科学者への道」 実行委員会編, 科学する心—日本の女性科学者たち—, 10-12(2001)
- MT-4012 Yamanishi, Tei, The Science of Tea: Michiyo Tsujimura, Japan's First Woman Doctor of Agriculture, The Committee for the Encouragement of Future Scientists(ed.)Blazing a Path: Japanese Women's Contributions to Modern Science, 11-13 (2001)
- MT-4013 ホームページ内容見本, Michiyo Tsujimura: Pioneering the Science of Tea, <http://www.studiospace.co.jp/japanecho/scientists/tsujimura/home.html>(2002)

「これからの女は組織だった学問で頭を練る必要がありますね」

『婦女新聞』1932・6・19より

一八八八(明治二十一年)九月七日、埼玉県に生まれた。緑茶の化学的成分についての研究により、一九三三(昭和七年)女性として初めての農学博士となった。この研究のなかで緑茶の渋味の正体を解明したことは、世界的にも高く評価されている。また、緑茶にビタミンCが多いことを発見、日本緑茶の輸出に貢献した。

東京府立女子師範を経て、東京女子高等師範学校現・お茶の水女子大学理科に入学。みちよは、組織だった学問は設備のある場所でないといけないと思ひ理科を選んだ。ここでのちに女性で初の理学博士となった保科コノ助教授に指導を受けた。一九三三(大正二十二年)卒業し、高等女学校、師範学校などで教壇に立つという義務を終え、七年後、学生時代からの夢であった研究者への道に入った。

一九二〇年、北海道帝国大学農学部農芸化学科の助教となり、研究の場を得た。一九二三年、東京帝国大学医学部医化学教室に移り、ビタミンの研究を始めた。翌年理化学研究所に研究生として入り、鈴木梅太郎博士のもとで緑茶の化学的研究に専念。

一九四九年よりお茶の水女子大学教授、学部長を務め、定年後実践女子大学教授、同名誉教授となった。この間、一九五一年に政府派遣の米園教育視察団員として渡米し、大学設置審議会委員なども務めた。一九五六年には研究業績に対する女性初の日本農学賞を受けた。

趣味の謡曲と華道は師範の域に達し、豊かな人間性と厳格な研究への情熱は、後進への鑑となった。一九六九年(昭和四四年)六月一日、八〇歳で没。

2) その他の関連資料(新聞記事など)

- MT-4101 週刊読売 1961年3月12日  
 グラビア記事名:カメラジョッキー “お茶” 博士 (写真撮影:落合武夫)  
 (a)写真 実践女子大学教授時代 顕微鏡を操作する辻村  
 (b)写真 右ページ 1961年3月竣工の桜蔭会館新築現場にて  
 左ページ 実践女子大学研究室で  
 (c)写真 実践女子大学教授時代 実験室の様子
- MT-4102 中日新聞 1981年11月, 記事名:日本の女性農学博士第一号辻村さんの遺品寄贈
- MT-4103 座談会女流科学者に訊く, 科学知識 16(10), 307-314(1936)
- MT-4104 中日新聞三河版 昭和45年11月21日, 記事名:世に出るお茶の効能
- MT-4105 東京新聞 昭和56年11月8日, 記事名:母校で後進の範に 辻村名誉教授の遺品
- MT-4107 週刊婦女新聞 昭和7年6月19日, 記事名:日本最初の婦人農学博士 辻村女史を訪ふ
- MT-4108 化学工業時報 昭和7年11月21日,  
 記事名:輸出緑茶のビタミンC ミツチエル博士の反論を駁す 農博辻村女史の講演

3) その他の関連資料(辻村の名前のある記事)

- MT-4201 吉村証子, 日本における女性科学者の歩みとその背景, 津田塾大学紀要 1, 24-24(1969)
- MT-4202 山下愛子, 日本の女性化学者たち, MOL, 昭和42年1月号, 110-110(1967)

4) その他の関連資料(物品)

- MT-4301 扇子 「祝還暦記念」
- MT-4302 置時計 1943年11月 茶業組合創立50周年



MT-4101(a) 週刊読売 1961年3月12日号グラビア

写真キャプション

「東京渋谷の実践女子大学、辻村食品化学研究室室長の辻村みちよさんは、本年七十三歳である。緑茶のかおりと、渋味の正体を発見して博士号をとった。『わたくしはね、何年研究したらいいでしょうなんて聞きにくる学生は相手にしないことにしているのですよ。』ケンビ鏡をのぞいている間にいつの間にか五十年が過ぎてしまった。気がついたら結婚するのを忘れていた。『でも、今の人にそんなこと要求しませんよ。現在なら研究と結婚は両立するでしょうからね。』早くうまれて損をしたという口ぶり。さばけた“お婆ちゃん”である。」



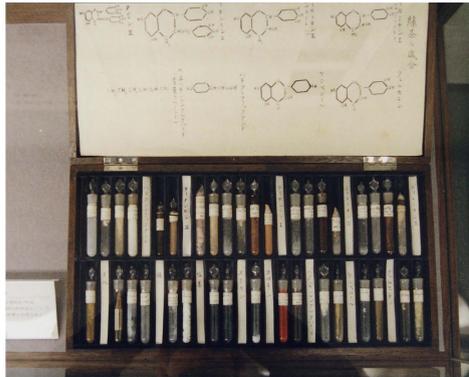
MT-4101(b) 週刊読売 1961年3月12日号グラビア

## 5. 実験資料

MT-5001 天秤



MT-5002 資料箱  
「緑茶の成分標本」



MT-4101(c) 週刊読売 1961年3月12日号グラビア

写真のキャプション 抹茶は、蒸すから酸化効果を殺してビタミンCが保存される。紅茶はその逆に酸化効果を生かすから赤くなる。」お茶を飲んでもすぐに講義が始まる。ほかのことは頭にないのだ。

## 6. 写真類

\*は写真を画像にて掲載した

- \*MT-6001 米国視察（大学施設運営研究のため）より  
帰朝の際の記念写真 (昭和27年5月)
- \*MT-6002 家族と共に（父、母、妹） 不明
- \*MT-6003 燕岳登山の際 (大正14年8月7日)
- \*MT-6004 女高師卒業記念（保井先生と） (大正2年3月31日)
- \*MT-6005 保井先生を自宅にお招きした際の写真 不明
- \*MT-6006 理化学研究所鈴木梅太郎博士研究室のメンバーと (大正14年頃)
- \*MT-6007 理化学研究所にて (昭和7年7月)
- \*MT-6008 若き日の辻村みちよ 不明
- \*MT-6009 女子学習院講師時代、教え子と (昭和21年2月)
- \*MT-6010 お茶の水女子大学家政学部長室にて執務中 (昭和25年4月)
- \*MT-6011 保井先生を囲んで  
当時のお茶の水女子大学女性教授たちと (昭和25年頃)
- \*MT-6012 食品化学研究室第一回卒論学生と (昭和27年)
- \*MT-6013 志賀高原お茶の水女子大学ヒュッテにて 散策 (昭和32年)
- \*MT-6014 乗馬姿、志賀高原にて山西助教授と (昭和32年8月)
- \*MT-6015 眞島先生、片山先生を囲んで (昭和26年10月)
- \*MT-6016 恩師近藤金助先生を囲んで (昭和25,26年頃)
- \*MT-6017 食物学科第一回生卒業式にて (昭和28年3月)
- \*MT-6018 食物学科第一回生の同窓会にて（山崎文子宅） (昭和28年秋)
- \*MT-6019 食品化学研究室にて（山西、古川と） (昭和28年頃)
- \*MT-6020 日本農学賞授与祝賀会 (昭和31年)
- \*MT-6021 食物学科第五回生卒業式、卒業生と教職員 (昭和32年3月)

- 
- \*MT-6022 海外視察に出かける教授達を見送る 羽田空港にて (昭和28年夏)
  - \*MT-6023 同上 (昭和28年夏)
  - \*MT-6024 三代目の桜蔭会館 建築現場にて (昭和28年)
  - \*MT-6025 勳四等叙勲記念写真 宮中にて (昭和43年4月)
  - \*MT-6026 園遊会にて 正装の写真 (昭和43年10月)
  - \*MT-6027 お茶の水女子大学創立80周年記念式の後で  
保井コノ先生の自宅に寄った卒業生たち (昭和30年11月24日)



MT-6001) 昭和26年5月 米国視察(1-4月)  
帰朝の際の記念写真



MT-6003) 大正14年8月7日 燕岳登山  
右が辻村



MT-6002) 家族写真(後列左からみちよ 妹 前列左から父 母)



MT-6004) 大正2年3月31日 女高師卒業記念  
左端保井コノ先生 中央が辻村



MT-6005) 保井先生を自宅に招いて(自宅庭)  
前列右より保井コノ みちよの母  
後列右よりみちよ みちよの妹



MT-6006) 大正14年頃 理化学研究所  
鈴木梅太郎博士研究室のメンバー 前列右端が鈴木博士



MT-6008) 若き日の辻村みちよ



MT-6007) 昭和7年7月 理化学研究所にて  
前列左から山崎みつ黒田チカ  
三浦環辻村みちよ



MT-6009) 昭和22年10月 女子学習院講師時代  
教え子たちと 前列中央に和子内親王殿下



MT-6010) 昭和25年4月  
お茶の水女子大学家政学部長室にて



MT-6011) 昭和25年頃 保井先生を囲んで  
当時のお茶の水女子大学女性教授たちと  
左より和田富起医学博士 辻村みちよ農  
学博士 保井コノ理学博士 黒田チカ理  
学博士 吉田武子理学博士

MT-6012) 昭和27年  
食品化学研究室第1回卒論学生と  
後列左から五十嵐(松井)淑子 木寺  
(古田)博子 右田(多田)節子  
中列左から吉松助手 山西助教授  
古川(高須)英 前列左から辻村みちよ  
石島(桜井)智恵 保田(宇田)礼子



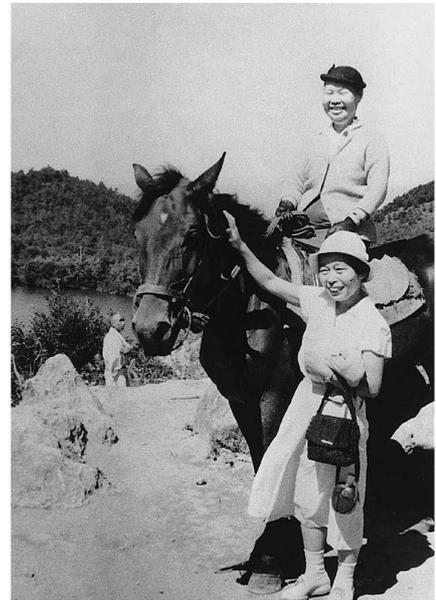
MT-6027) お茶の水女子大学創立80周年記念式  
の後で(昭和30年11月24日)  
保井コノ先生の自宅に寄った卒業生たち  
後列右から  
山西貞 阿武喜美子 伊達たまき 加  
藤セチ 辻村みちよ 吉田武子 和田  
富起  
前列右から河崎なつ 黒田チカ 保井  
コノ (コノの妹)保井マサ 山田てつ



MT-6013) 昭和32年夏 志賀高原  
お茶の水女子大ヒュッテにて 散策



MT-6015) 昭和26年10月 眞島先生 片山先生を囲んで  
前列左から辻村みちよ 黒田チカ 眞島利行 片山正夫 片山夫人  
後列右から伊達たまき 山西貞 岡嶋正枝 鈴木照子 吉田武子 一人おいて小林ハナ子



MT-6014) 昭和32年8月 乗馬姿  
食品化学研究室関係の人々との旅行  
志賀高原丸池公園にて 山西貞と



MT-6016) 恩師近藤金助先生を囲んで  
右から辻村みちよ 近藤金助  
波多腰ヤス(奈良女子大学家政学部長)

MT-6018) 昭和28年秋 食物学科第一回生の  
クラス会 (山崎文子様宅)  
後列右より  
右田(多田)節子 木寺(古川)博子  
石川(前野)寛子 高瀬(榎本)利子  
五十嵐(松井)淑子 古川(高須)英  
石島(桜井)智恵 岩浪(赤羽)孝子  
石井(山崎)文子  
前列右より  
山崎文子母上 家近恵子(助手)  
吉松藤子(助手)  
由井テイ先生(調理日本料理)  
辻村みちよ先生 稲垣長典先生  
山西貞(食品化学) 小松(大矢)悦子



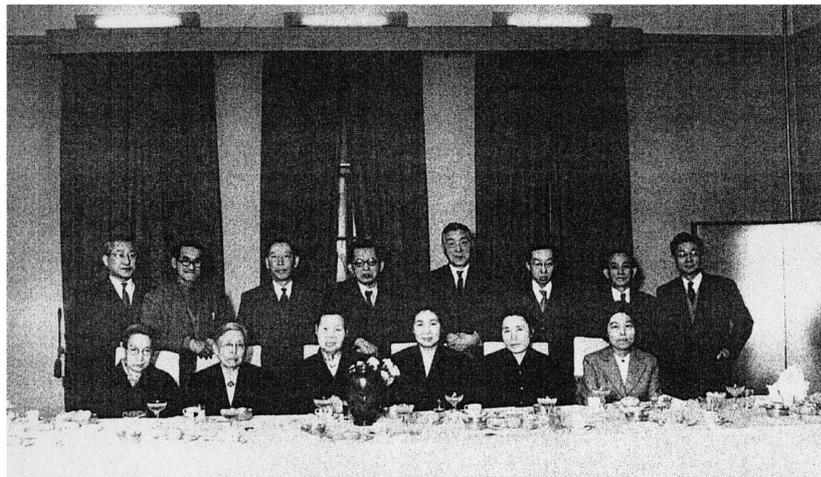


MT-6017) 昭和28年3月 第1回卒業生と



MT-6019) 食品化学研究室のメンバー(山西貞 古川)と

MT-6020) 昭和31年 日本農学賞授与祝賀会  
前列左より本間ヤス 保井コノ 辻村みちよ  
加藤セチ 阿武喜美子 山西貞



MT-6021) 昭和32年3月  
食物学科第5回卒業式  
卒業生と教職員全員



MT-6022) 昭和 28 年夏 海外視察に出かける成田順  
松平友子両教授を羽田で見送る辻村家政学部長  
左からみちよ 松平 成田 野口明学長



MT-6023) MT-6022に同じ 羽田での見送り



MT-6024) 桜蔭会館建設委員長時代 (昭和 28 年 第 3 代目の会館前)



MT-6025) 昭和 43 年 4 月  
宮中にて 勳四等叙勲記念写真



MT-6026) 昭和 43 年 10 月 園遊会にて 正装  
前列(着席)左から 3 番目が辻村

# 7. 辻村みちよ関連催事 (没後)

○「お茶の水女子大学の歴史と女性研究者の歩み」展 1981. 11. 25 ~ 12. 1 於：お茶の水女子大学

MT-7001 配布用パンフ

MT-7002 展示用パネル

○式紙塚顕彰碑建立 除幕式 1981. 11. 1 於：豊橋、中野様(辻村の姪)宅庭

MT-7003 配布用パンフ (現寸 20×41.5cm)

## 式紙塚顕彰碑




付 記

昭和五十六年十一月二十四日のお茶の水女子大学の建学記念の展示を機として、故辻村みちよ博士の「記念遺品を同大学の資料保存室へ寄贈」収納保存をして頂くことになりました。

この資料は昭和五十二年十一月三日から十一月十日まで、浦和市埼玉会館郷土資料室において催された「埼玉の女性展」へ展示された。学位記などございます。

十一月月上旬に同大学教授山西真先生を通して納められることになりました。後々まで有意義に生かされ、後進の方々に御覧頂けることに深いよろこびを感じ、感謝いたして居ります。

**式紙塚顕彰碑** 昭和五十六年十一月吉日建立

所在地 愛知県豊橋市船町二二〇の三二地内

石材 愛知県額田郡夏山大河原

碑 高 一〇二cm 施工 シヤマ工房

巾 一〇〇cm 厚さ 三十二cm 高華園

建立 実践女子大学辻村研究室卒業生有志  
姪 中野 韶子

(表)

### いしづみにのごすくころ

昭和五十六年十一月一日

中野 韶子

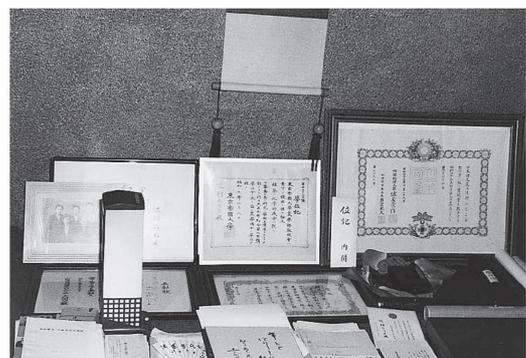
### 辻村みちよ略年譜

明治二十二年 九月十七日	埼玉県立立川郡川口町(現川口)に、父辻村大次郎、母つねおと生まれる。	昭和二年 九月	女子学院高等科卒業
明治三十二年 三月	東京女子高等師範校を経て、東京女子師範校に入校。	昭和三年 八月	女子学院高等科卒業
明治三十四年 四月	東京女子師範校卒業。	昭和四年 八月	女子学院高等科卒業
明治三十五年 九月	東京女子師範校教授。	昭和五年 一月	女子学院高等科卒業
明治三十八年 四月	東京女子師範校教授。	昭和六年 四月	女子学院高等科卒業
明治四十一年 四月	東京女子師範校教授。	昭和七年 四月	女子学院高等科卒業
明治四十二年 四月	東京女子師範校教授。	昭和八年 四月	女子学院高等科卒業
明治四十四年 四月	東京女子師範校教授。	昭和九年 四月	女子学院高等科卒業
明治四十六年 四月	東京女子師範校教授。	昭和十年 四月	女子学院高等科卒業
明治四十八年 四月	東京女子師範校教授。	昭和十一年 四月	女子学院高等科卒業
明治五十年 四月	東京女子師範校教授。	昭和十二年 四月	女子学院高等科卒業
明治五十二年 四月	東京女子師範校教授。	昭和十三年 四月	女子学院高等科卒業
明治五十四年 四月	東京女子師範校教授。	昭和十四年 四月	女子学院高等科卒業
明治五十六年 四月	東京女子師範校教授。	昭和十五年 四月	女子学院高等科卒業
明治五十八年 四月	東京女子師範校教授。	昭和十六年 四月	女子学院高等科卒業
明治六十年 四月	東京女子師範校教授。	昭和十七年 四月	女子学院高等科卒業
明治六十二年 四月	東京女子師範校教授。	昭和十八年 四月	女子学院高等科卒業
明治六十四年 四月	東京女子師範校教授。	昭和十九年 四月	女子学院高等科卒業
明治六十六年 四月	東京女子師範校教授。	昭和二十年 四月	女子学院高等科卒業
明治六十八年 四月	東京女子師範校教授。	昭和二十一年 四月	女子学院高等科卒業
明治七十年 四月	東京女子師範校教授。	昭和二十二年 四月	女子学院高等科卒業
明治七十二年 四月	東京女子師範校教授。	昭和二十三年 四月	女子学院高等科卒業
明治七十四年 四月	東京女子師範校教授。	昭和二十四年 四月	女子学院高等科卒業
明治七十六年 四月	東京女子師範校教授。	昭和二十五年 四月	女子学院高等科卒業
明治七十八年 四月	東京女子師範校教授。	昭和二十六年 四月	女子学院高等科卒業
明治八十年 四月	東京女子師範校教授。	昭和二十七年 四月	女子学院高等科卒業
明治八十二年 四月	東京女子師範校教授。	昭和二十八年 四月	女子学院高等科卒業
明治八十四年 四月	東京女子師範校教授。	昭和二十九年 四月	女子学院高等科卒業
明治八十六年 四月	東京女子師範校教授。	昭和三十年 四月	女子学院高等科卒業
明治八十八年 四月	東京女子師範校教授。	昭和三十一年 四月	女子学院高等科卒業
明治九十年 四月	東京女子師範校教授。	昭和三十二年 四月	女子学院高等科卒業
明治九十二年 四月	東京女子師範校教授。	昭和三十三年 四月	女子学院高等科卒業
明治九十四年 四月	東京女子師範校教授。	昭和三十四年 四月	女子学院高等科卒業
明治九十六年 四月	東京女子師範校教授。	昭和三十五年 四月	女子学院高等科卒業
明治九十八年 四月	東京女子師範校教授。	昭和三十六年 四月	女子学院高等科卒業
明治一〇〇年 四月	東京女子師範校教授。	昭和三十七年 四月	女子学院高等科卒業
明治一〇二年 四月	東京女子師範校教授。	昭和三十八年 四月	女子学院高等科卒業
明治一〇四年 四月	東京女子師範校教授。	昭和三十九年 四月	女子学院高等科卒業
明治一〇六年 四月	東京女子師範校教授。	昭和四十年 四月	女子学院高等科卒業
明治一〇八年 四月	東京女子師範校教授。	昭和四十一年 四月	女子学院高等科卒業
明治一〇〇年 四月	東京女子師範校教授。	昭和四十二年 四月	女子学院高等科卒業
明治一〇二年 四月	東京女子師範校教授。	昭和四十三年 四月	女子学院高等科卒業
明治一〇四年 四月	東京女子師範校教授。	昭和四十四年 四月	女子学院高等科卒業
明治一〇六年 四月	東京女子師範校教授。	昭和四十五年 四月	女子学院高等科卒業
明治一〇八年 四月	東京女子師範校教授。	昭和四十六年 四月	女子学院高等科卒業
明治一〇〇年 四月	東京女子師範校教授。	昭和四十七年 四月	女子学院高等科卒業
明治一〇二年 四月	東京女子師範校教授。	昭和四十八年 四月	女子学院高等科卒業
明治一〇四年 四月	東京女子師範校教授。	昭和四十九年 四月	女子学院高等科卒業
明治一〇六年 四月	東京女子師範校教授。	昭和五十年 四月	女子学院高等科卒業
明治一〇八年 四月	東京女子師範校教授。	昭和五十一年 四月	女子学院高等科卒業
明治一〇〇年 四月	東京女子師範校教授。	昭和五十二年 四月	女子学院高等科卒業
明治一〇二年 四月	東京女子師範校教授。	昭和五十三年 四月	女子学院高等科卒業
明治一〇四年 四月	東京女子師範校教授。	昭和五十四年 四月	女子学院高等科卒業
明治一〇六年 四月	東京女子師範校教授。	昭和五十五年 四月	女子学院高等科卒業
明治一〇八年 四月	東京女子師範校教授。	昭和五十六年 四月	女子学院高等科卒業

(裏)



MT-7005) 昭和56年9月 式紙塚除幕式 豊橋の中野様(辻村の姪)宅庭にて 中野韶子(俳人)



MT-7004) 除幕式の際の展示

○第七回企画展「お茶の科学史」1999. 10～12. 5 於：金谷町 お茶の郷博物館

MT-7006 記事名：「お茶の科学史」探る 貴重な資料集め企画展(静岡新聞)

「お茶の科学史」探る  
 貴重な資料集め企画展  
 お茶の郷博物館 金谷町の茶の郷

金谷町のお茶の郷博物館 から眺めた貴重な資料など  
 の第七回企画展「お茶の科学史」が、始まった。お茶の生産や育種の歴史を、サイエンスの観点から、二月五日まで。近年、お茶の効用成分として有名な「カテキン」を初めて発見したのはお茶の水女子大学出身の辻村みちよ博士。辻村博士は相良町出身のビタミン学者、鈴木梅太郎博士の「鈴木研究室」に在籍中にカテキンを発見した。カテキンを発見した時の成分分析標本や世界に向けて発表した当時の論文など「大変貴重な資料」(同博物館)や、鈴木博士の自筆のノートなどが展示されている。また、お茶の効用を利用した数多くの商品も並んだ。

そのほか、日本で最早といわれる明治末の「高林式粗採機」、ヤブキタなどの育種研究の標本、凍霜害からお茶を守ってきた防霜ファンなどの機械も展示されている。同展への入場は自由(常設展入館者は無料)。

カテキン発見者の辻村博士に関連した資料  
 に見入る人たち＝金谷町のお茶の郷博物館

○埼玉会館主催「埼玉の女性」展 1978. 11. 3～12. 10 於：埼玉会館郷土資料室

MT-7007 配布用パンフ

○お茶の水女子大学歴史資料室展示 1999. 6. 25 開室時～現在に至る

MT-7008 研究業績標本「緑茶の成分」



